

台東区立蔵前小学校改築

基本構想・基本計画

平成27年7月

台東区

改築に至る経緯	1
学校施設等の現況	2
1. 学校施設の概要	
2. 敷地条件等	
3. 児童数・学級数	
4. 通学区域	
蔵前小学校の教育目標・教育活動	3
1. 教育目標	
2. 教育活動	
基本構想	5
1. 改築にあたっての基本的な考え方	
2. 基本方針	
基本計画	7
1. 施設整備計画	
2. 施設規模・施設構成	
改築スケジュール	10

改築に至る経緯

蔵前小学校は、精華小学校、小島小学校、済美小学校の3校統合により、平成15年4月1日に開校した。

現在の校舎は昭和57年度に精華小学校校舎として建築された建物で、本区におけるオープン・プラン・スクールの嚆矢として、竹町小学校（現在の平成小学校）とともにいち早くオープンスペースを持つ小学校となった。

3校統合を機に、平成15・16年度に新校設立改修工事を実施し、通学区域の児童数に対応できる教育環境を整備した。

その後12年が経過した現在、蔵前小学校区域の就学前人口は増加傾向にあり、学級数も創立当時の12学級から15学級へと増加している。これまでは校舎の内部改修により普通教室を確保して学級数の増加に対応してきた。

今後更に児童数・学級数の増加が確実な状況にあることから、現校舎を改築し、将来の教室需要に的確に対応するとともに、今後の多様な学習・指導方法に柔軟に応えられる教育環境を整備することとした。

< 児童数・学級数の推移 > 各年度4月7日時点

年度	児童数	学級数
15	353	12
22	423	13
26	485	15
27	476	15

以下推計値

28	476	15
29	513	15
30	532	16
31	560	17
32	576	18
33	644	21
34	670	21
35	673	21
36	687	20
37	707	20
38	714	21
39	690	21
40	691	22

学校施設等の現況

1 学校施設の概要

- (1) 住 所 台東区蔵前4 - 19 - 11
(2) 敷地面積 3,784 m²
(3) 延床面積 5,316 m² (規模・構造 地上4階建、RC造)
うち体育館床 450 m²
(4) 校庭舗装面積 1,124 m²

2 敷地条件等

- (1) 用途地域 商業地域
(2) 防火準防火地域 防火地域
(3) 区域区分 市街化区域
(4) 建ぺい率 80%
(5) 容積率 500%
(6) 日影規制 規制対象区域外

3 児童数・学級数(平成27年4月7日現在)

(1) 通常学級

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	74	99	77	72	68	86	476
学級数	3	3	2	2	2	3	15

(2) 特別支援学級

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	0	5	1	1	3	3	13
学級数	2						

4 通学区域

蔵前二丁目全域、蔵前三丁目全域、蔵前四丁目全域、小島一丁目全域、
小島二丁目全域、寿一丁目全域、寿二丁目全域、三筋一丁目全域、
三筋二丁目全域、元浅草一丁目1番～13番、元浅草三丁目1番～16番、
19番～22番、元浅草四丁目1番～4番、8番～10番

蔵前小学校の教育目標・教育活動

1 教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、自主性と創造性に富み、母校を愛し、人を愛し、郷土への誇りと豊かな知性と感性を持ち合わせるとともに、心身ともに健康でたくましい児童の育成を目指して、次の目標を掲げる。

自ら学ぶ子

(自主的・主体的課題を追求し続ける意欲や態度の育成)

人間性豊かな子

(自他ともに尊重し、互いに認め合う態度の育成)

心も体も健康な子

(心身ともに健康でたくましく生きる力の育成)

チャレンジする子

(意欲的にチャレンジし、粘り強く取り組む態度の育成)

2 教育活動

(1) 人権教育の徹底と命を大切にす豊かな心づくりの推進

自他の生命の尊重と規範意識や思いやりの心の育成を道徳教育の重点とし、各教育活動における道徳教育の充実を図るとともに、人権教育を推進する。特別活動を充実させ、自主的・実践的な態度を育成するとともに、集団の中で自己の良さを生かし望ましい人間関係を育てる。

道徳教育の充実 ひまわり学級との交流活動

夢や希望をはぐくむこころざし教育 縦割り班活動の充実

(2) 学習への構えを含めた基本的生活習慣を確立し、学力の向上を図る

基本的生活習慣を身につけ、節度ある生活ができる児童の育成をめざす。学習習慣の確立のために、家庭と連携し、家庭学習の計画的な実践を図る。

I C T教育の充実 蔵前スタンダードの育成

算数少人数指導の充実 ワールドタイム(外国語活動)

学習の定着をめざすオレンジ塾

(3) 体力向上・健康教育と食育の推進

子供達の健康への関心を高め、体力向上を意識し業間体育やなわとび月間を設定し、基本的な身体能力の向上と健康づくりの推進を図る。給食の時間等において、望ましい食習慣を形成するなど食育の推進を図る。蔵前食育プログラムに基づく給食の充実と家庭と連携した食育を推進するとともに、和食の素晴らしさと啓発活動を実施する。

業間体育やなわとび月間 5種目走の実施
蔵前食育プログラムに基づく給食の充実
和食のすばらしさの理解と啓発

(4) 特色ある教育活動（蔵前オーケストラや金管バンド / 感性を豊かに高める造形活動）

地域と連携して推進する蔵前オーケストラによるサマーコンサートとスプリングコンサートを実施する。毎週月曜日の全校児童朝会において金管バンドの演奏により行進の練習を行う。6年生は運動会において金管バンドのドリルマーチを行う。

また地域の優れた方々から伝統工芸等を学び、地域を大切にするとともに日本のよさにふれあう活動を通じ、地域を大切に育てる。

蔵前オーケストラや金管バンド
ふれあい学習（華道、茶道、伝統工芸、川柳等）の充実
農作業体験を生かした米の学習 蔵前公園における植物栽培

(5) 地域の学校として開かれた学校づくりを推進する

地域行事である祭り等に積極的に参加し、地域の一員である自覚を高める。ふれあい給食や町会給食を実施し、日常的に町会の方々と交流を深め、地域防災の拠点校としての役割を果たす。

ふれあい給食・町会給食等における地域とのふれあい
町会班等を活用した集団登下校における安全指導の徹底
避難訓練等における町会や関係機関との連携

基本構想

1 改築にあたっての基本的な考え方

蔵前小学校は、南側に区道を挟んで精華公園、環境ふれあい館が位置するなど、地域一体がエコを特色にした良好な教育環境と住宅環境に恵まれた、歴史と伝統のある小学校である。

今回の改築では、児童数・学級数の増加により将来必要となる教室数を確保するとともに、現在の蔵前小学校が担う役割と機能を引き続き維持しながら、本区の今後の教育の方向性を示した「台東区学校教育ビジョン（平成25年3月）」にそって、多様な学習機会に対応する学びの環境整備を図ることとする。

2 基本方針

(1) 安全・安心な学校づくり

児童にとって学習の場であるとともに、豊かな生活の場としてゆとりと潤いのある施設とする。

校舎内の採光、通風、換気等に十分配慮し、児童が健康的に学校生活を送ることができる施設とする。

児童が安全に学校生活を送ることができるよう、防犯についても十分に配慮した施設とする。

耐震性を確保するとともに、災害時に避難所や医療救護所としての役割も果たすことができる施設とする。

すべての人が使いやすいユニバーサルデザインの視点を取り入れた施設とする。

(2) 多様な学習活動に対応した学校づくり

各学年段階に応じて、学習・生活に必要な空間、学習環境を確保することができるよう、教室構成、空間配分及び位置を勘案した施設とする。

今後の情報教育の進展に対応することができるよう、校内LAN、ICT教育環境構築のための無線化など、高機能かつ多機能な施設とする。

少人数指導、グループ学習等を効果的に行うことができる、多様な学習形態に対応した施設とする。

教育上特別な支援を要する児童に配慮し、適切な指導や必要な支援を行うことができる施設とする。

省エネルギー設備の導入、自然エネルギーの活用、緑化等により環境に配慮した施設（エコスクール）とする。

(3) 地域に開かれた学校づくり

地域コミュニティの核として、地域住民等が活用できる施設とする。

蔵前小学校地域の歴史、伝統、文化を保存・継承する施設とする。

学校施設の地域開放に際し、児童の学習や生活に支障のないよう、動線、運営管理の方法等に配慮した施設とする。

地域の景観やまちなみに調和する施設とする。

基本計画

1 施設整備計画

改築の基本構想に基づき、新校舎の教室・体育施設等について、次のとおり整備する。

(1) 普通教室

普通教室は、蔵前小学校区域の就学前人口の将来推計を踏まえ、最大22学級に対応できる構成とする。また、パーティション等を活用して、学級数の変動等に合わせてフレキシブルに使用できる仕様とし、すべての教室を有効に活用する。

普通教室の隣に廊下と一体となったオープンスペースを配置する。オープンスペースは、グループ学習や複数学級の合同授業、ICT機器を使用した授業など、多様な学習指導形態に活用するほか、地域ふれあい給食や学年集会等にも活用する。

(2) 特別支援学級

教室は、採光・通風など良好な環境を確保するとともに、将来の学級数の増加に対応するため、パーティション等で分割できるようにする。

職員室は、学級数の増加に伴う教職員の増に対応できる広さとする。

(3) 特別教室等

コンピュータ教室と図書室は、一体的に使用できる配置とし、調べ学習等に活用できる環境とする。

教育相談室は、児童が落ち着いて相談できる静かな環境とし、動線等についても考慮する。

学習指導や会議など、様々な用途に活用できる多目的室を設置する。

(4) 管理諸室

職員室は、学級数の増加に伴う教職員の増に対応できる広さとする。

校長室は、来客対応や関係者との打ち合わせ等を行うことができる広さとする。

保護者や地域の活動に資するため、PTA室及びコミュニティ会議室を設置する。

学校及び地域の歴史資料等を展示・保存する記念室を設置する。

(5) 体育施設

校庭（屋外運動場）は、小学校設置基準を踏まえ、可能な限り広くするため、校舎屋上に整備する。また校庭には、体力テスト等に必要な直線 5 0 m 走路を確保する。

校庭への動線は、日常の移動、地域開放、災害時の避難等を考慮し、1 階から直接利用できるようにする。

体育館（屋内運動場）は、国の必要面積の基準を踏まえ、日常の体育授業のほか、全校集会、音楽会、卒業式等の式典や、地域開放など多様な用途に活用できるよう、可能な限り広くする。

プールは屋外に整備し、水泳指導等に使用しない期間は児童の遊び場等として有効活用できるようにする。

(6) 放課後子供教室

放課後の児童の安全な居場所を確保するため、放課後子供教室を併設し、こどもクラブ（放課後児童健全育成事業）と同様に午後 7 時まで預かりを行うことができる専用室（育成室）を確保する。

(7) 防災関係施設

蔵前小学校への避難者数の想定を踏まえ、必要な物資を備蓄できるだけの容積の防災備蓄倉庫を確保する。

災害時の医療救護所として、必要な薬品庫等の設備を備える。

(8) その他

I C T 教育機器の活用に必要な校内 L A N 環境等を構築する。

安全の確保と施設の適切な管理のため、学校と地域開放の出入口や動線、管理設備は分けて設置する。

太陽光発電設備、L E D 照明、壁面緑化など、環境に配慮したエコスクール化を図る。

建物の内装は、児童の使用に耐えられる丈夫な仕上げにするとともに、汚れに強く日常清掃等によるメンテナンスのしやすいものとする。

建物は、スケルトン（構造躯体）とインフィル（内装・設備）とを分離するなど、将来の施設の他用途への変更等に対応できる建築方式とする。

2 施設規模・施設構成

(1) 施設規模

校舎延床面積 約 8,000 m² 地上 4 階建
 校庭（運動場） 約 1,900 m²（校舎屋上）
 屋外プール 約 480 m²

(2) 施設構成

区分	室名	室数	区分	室名	室数	
普通教室	普通教室	22	管理諸室	校長室	1	
	オープンスペース	22		職員室	1	
特別支援学級関係室	特別支援学級教室	1		事務室	1	
	職員室	1		主事室	1	
特別教室等	理科教室	1		会議室	1	
	理科準備室	1		放送室	1	
	音楽教室	1		印刷室	1	
	音楽準備室	1		保健室	1	
	楽器庫	1		PTA 室	1	
	図工室	1		職員更衣室	2	
	図工準備室	1		倉庫・教材室	4	
	家庭科室	1		記念室	1	
	家庭科準備室	1		給食関係室	給食調理室	1
	コンピュータ教室	1			配膳室	4
	コンピュータ準備室	1	調理員室・食品庫		1	
	図書室	1	放課後子供教室	育成室	1	
	多目的室	2		職員更衣室	1	
	教育相談室	1	共用部分	昇降口		
児童更衣室	2	トイレ				
コミュニティ関係室	コミュニティ会議室	1		誰でもトイレ	2	
	和室	1		手洗い場		
防災関係室	防災備蓄倉庫	1		廊下		
	医療救護薬品庫	1		エレベータ	1	
				給食用エレベータ	1	

改築スケジュール

平成27年6月～平成28年11月 基本・実施設計
 平成28年9月～平成29年5月 現校舎解体工事
 平成29年6月～平成31年2月 改築工事

